

## OMC・関西シネクラブ合同映像

### フェスティバル プログラム決定

去る9月1日、関氏宅にてOMC・関西シネクラブより世話役が集まり、出品候補作品を見た後プログラムの編制会議に入りました。今年は呼びかけが効き過ぎ?たのか出品希望者が多く、全部上映したら9時20分までかかりそうだという、うれしい悲鳴が上がりました。朝日生命ホールを時間延長するか、9時までで抑えるかという議論になりましたが、観客の立場に立てば9時までで終わった方がよい、との結論に達しました。そこで作品を短くすることを条件にさせていただいたり、心ならずもご辞退していただくことになったりして、ようやく9時には終える見通しとなりました。しかし作品紹介時間や挨拶時間などかなり切り詰めなければなりません。開会時間も厳守となります。機材のトラブルがなければと念じます。

#### ■発表作品(上映順)

- |                   |        |
|-------------------|--------|
| ① おわら風の盆(フィルム作品)  | 金子 博泰氏 |
| ② 淀・よし焼き(フィルム作品)  | 村田 英夫氏 |
| ③ 自然の中では老いも若いも皆友達 | 越本吉太郎氏 |
| ④ なにわ人形芝居         | 山田 吉男氏 |
| ⑤ もうひとつの熱闘        | 関 剛氏   |
| ⑥ しまい孔法           | 羽田 昭治氏 |
| ⑦ 鞍馬の四季           | 西海 実氏  |
| ⑧ 長良川を行く(撮影会作品)   | 前田 茂夫氏 |
| <休憩>              |        |
| ⑨ 流水の季節           | 本田 裕信氏 |
| ⑩ 自我像             | 有村 博氏  |
| ⑪ ポエム奈良の鹿         | 杉本 憲一氏 |
| ⑫ 象と人のペラヘラ        | 上総修一郎氏 |
| ⑬ 開(ひらき)のおばあちゃん   | 合原 一夫氏 |

来年度の発表会について：来年度の発表会をどうするか、経費負担をどうするかなど意見が出ましたが、大きな問題ですので今後、関西シネクラブと

もどもじっくり考えて結論を出していきたいと思います。ただ発表会そのものは今後も続けていきくことは守っていききたいと考えます。(合原一夫)

## 9月例会のお知らせ

9月例会は28日(第4土曜日)18時より、阿部野市民学習センター(あべのベルタ3F)にて。朝夕めっきり涼しくなりました。映像の秋のスタートです。月1回の楽しい集いにどうぞ。

作品の方もどうぞよろしく。フェスティバルのプログラムも用意できると思いますので、配布のほうもよろしくお願いします。

## 8月例会のレポート

(今月の担当:有村 博さん)

残暑厳しいとはいっても、8月末に近づくと朝晩しのぎやすくなりました。今月は春の撮影会作品の審査もあって、久しぶりに多くの作品に恵まれ、中には上映出来ない作品もあって盛況でした。

長良川撮影会は10名の参加者でしたが、8名が作品出品という効率の良さで喜ばしい限りです。中でも岩井さんの作品がS-VHSのCカセットでアダプター(OMCの備品)が何故か会場になく、上映出来なかったのが残念でした。岩井さんすみませんでした。今後はこういうことがないように気をつけます。なお岩井さんの作品は来月上映することで了解をして頂ました。

8月例会の出席者:有村、井田、今井、岩井、江村、岡本、上総、合原、関、西山、田中、花岡、前田、森の14氏。

### ◆上映作品

作品が5本出品されましたが、審査会の関係で来る10月のフェスティバルでの上映候補3作品にしぼって上映しました。上映出来なかった作品は是非今月持ってきて下さい。

#### 1. ポエム 奈良の鹿

杉本憲一氏

9分30秒

奈良にお住いの作者は、8ミリフィルム時代のフジコンで奈良の鹿を撮って金賞に輝いた作家です。その地に住んでいてもなかなか撮れない美しいカットの連続で、四季にわたっての鹿が描かれています。BGM(音量が低すぎますが)も適切で、欲をいえば鹿の出ない朝日のカットと、ラストの夕日のカットを少し整理されるともっと良くなるように思いま

したが、例会場でのご意見もそのようでした。

2. 自我像 有村 博氏 15分00秒

昨年急性肝炎にかかり2ヶ月以上も入院し、その上両膝の関節炎で水を抜いて苦しんだ作者が、定年後の自分の毎日の生活を振り返りながらビデオ化することで、より健康でより生きがいのある生活を目指そうと意気込んだ作品です。良いことづくめで今年の苦しかった部分がナレーションだけではインパクトが弱いというアドバイスを頂戴し、その修正に再度頭をひねることにしています。

3. 日本一の串柿の産地 串柿の里を訪ねて 西山 正博氏 10分56秒

女性インタビュアーが現地の売店でみかんを買うところで思ったのですが、テレビ局のヤラセと違って、アマチュアの私達のそれはすべてがブツケ本番になります。作者とインタビュアーの事前の打合せがあったにしても相手（現地の人）のある事で中々うまくいきません。女性が渋柿を食べて、その渋さに顔をしかめるシーンはよいのですが、やはり当地では串を作るだけでなく、柿を収穫して皮をむいて串にさし、それを干す工程の撮れる時に行く方がよいように思いました。

◆撮影会作品（1名3票、14名の互選）

題名	上映時間	作者名	得票数	順位
1. 長良川鵜飼い	8分30秒	江村 一郎氏	3	
2. 長良川旅情	18分	岡本 至弘氏	1	
3. 長良川	5分30秒	森 保信氏	4	
4. 長良川をいく	9分35秒	有村 博氏	7	秀作賞
5. 長良川を行く	19分20秒	前田 茂夫氏	12	最優秀賞
6. 長良川鵜飼	9分25秒	関 剛氏	9	優秀賞
7. 長良川	19分49秒	花岡 汪氏	5	

以上の結果、前田氏の作品が中でも抜群に出来が良いのでフェスティバル上映作品に満場一致で決定しました。

## 長良川撮影会作品総評

会長 合原 一夫

今回の長良川撮影会作品は、企画担当上総さんの大変なご尽力で準備されたもので、一般の人には入れない所も撮影出来るなど久しぶりにOMCらしい大型の撮影会になったことは喜ばしい限りでした。私が都合により、参加

出来なかったのが残念です。

一方被写体が豊富なだけに、皆さん纏め方に大変悩まれ、苦労されたのではないかと思います。撮り直しに行くと言っても、遠方なので簡単には行けず、結局撮影会で撮影した映像をどう料理するか、まとめるのかの勝負になりました。

関さんの「長良川」は鶺鴒だけにまとめられましたが、鶺鴒匠の語りの場面の位置の悪さに拘らず、分りやすくソツなく纏められていました。

森さんの「長良川」は長良川演歌をバックに歌謡ビデオ風に作られましたが、後日撮り直しに行かれたのでしょうか、なかなか良いカットがありました。

江村さんの「長良川鶺鴒い」も鶺鴒だけに絞られていましたが、いわゆる観光化された鶺鴒を作品にするには難しかったようです。

岡本さんの「長良川旅情」は鶺鴒匠の話をもそのまま長々と見せるなど総じて長く、もっと要所要所に絞り込んで編集すれば良い作品になると思います。鶺鴒匠の話の中にもインサートで画面に変化を付ける等工夫されたらと思います。

花岡さん「長良川」は、ほぼ撮影した順に編集され、解説も入れた20分という大作ですが、前半の出来が良かったのですが、後半の鶺鴒の方が長すぎて前半の話がどこかに吹き飛んでしまったようで残念でした。

有村さんの「長良川をいく」は10分足らずの長さながら、うまく要領よく纏められており、感心しました。上流の鶺鴒から下流の河口堰まで撮影の逆

に編集されており、正解かと思いました。

最優秀賞に輝いた前田さんの「長良川に行く」は往年のOMC作品を思い出させるようなスケールの大きな纏め方をされており、河口堰の社会的意義、環境問題なども絡めてよくまとまっております。ただナレーションで「治水」をジスイと発音されているのはチスイの間違いで、耳障りでしたので直して欲しいと思います。いずれにしても大変な努力作で、秋のフェスティバル上映作品の仲間入りを果たしました。

次回の撮影会の場所、テーマについて皆さんの声をお聞かせ下さい。  
一泊でもかまいません。よろしくお願いします。

合同フェスティバルは10月18日(第3金曜日)です

友人・知人に声をかけ、観客動員をよろしく!